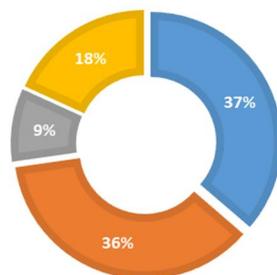


障がい者の生涯学習の学びの場を考える～どんな視点が必要？～

事業の内容

- 1 事業名 令和6年度（2024年度）第1回社会教育上級講座
- 2 日時 令和6年8月21日（水）13:30～16:30
- 3 場所 かでる2・7 8階 810B会議室
- 4 人数 11名



参加者区分

- 社会教育主事・社会教育主事補
- 教育委員会社会教育担当行政職員
- 社会教育関係団体
- 教職員

I プログラム

13:30 13:40		14:40 14:50		16:30	
8/21	受付	開会 講義 「障がい者を対象とした学びの場に必要な視点とは」	休憩	ブラッシュアップ演習	閉会

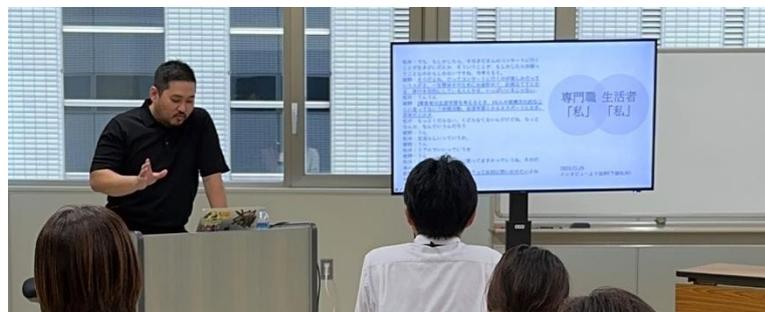
【講義】

「障がい者を対象とした学びの場に必要な視点とは」

【講師】 医療法人稲生会 みらいづくり研究所
学びのディレクター 松井 翔惟 氏

【内容】

障がい者を対象とした学びの場に必要な視点とは何か、実際に障がい者が実施している事例を参考に、個別のアプローチの方法や生活者としての視点、社会教育からみる合理的配慮とは何かを考えた。



【ブラッシュアップ演習】

【助言者】 医療法人稲生会 みらいづくり研究所
学びのディレクター 松井 翔惟 氏

【司会・進行】 北海道立生涯学習推進センター
社会教育主事 斉藤 綾香
主査 中西 めぐみ

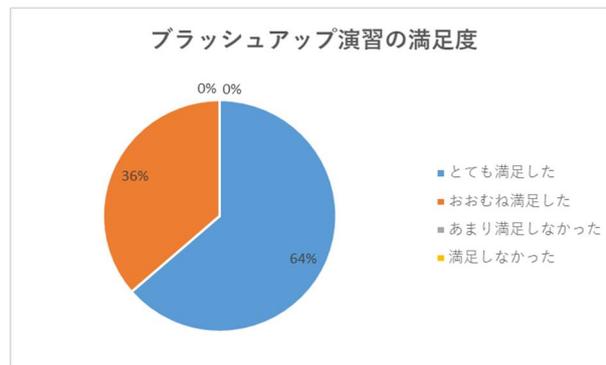
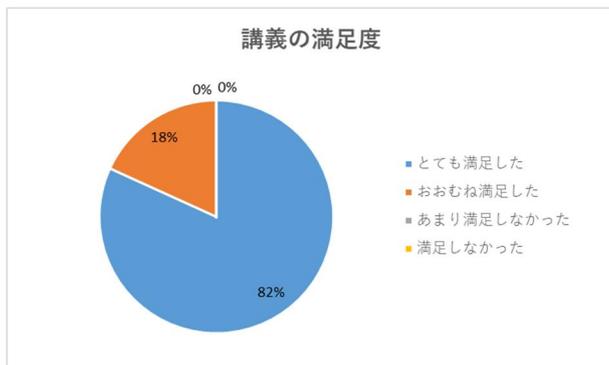
【内容】

障がいがある方も事業に参加するにはどのような手立てがあるか考え、各市町村で実際に行われている既存の事業のアレンジ、または新規企画案を作成した。1時間の個人作業後、アレンジした事業案、または新規作成した企画案をグループ内で交流した。

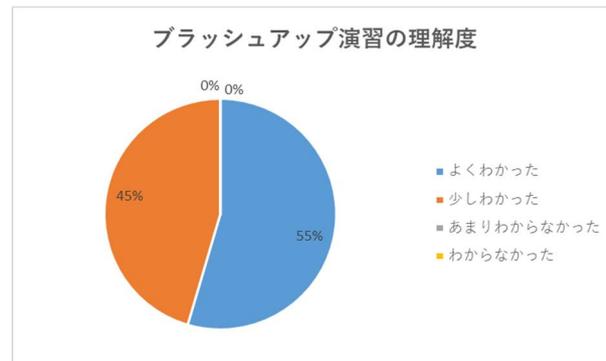
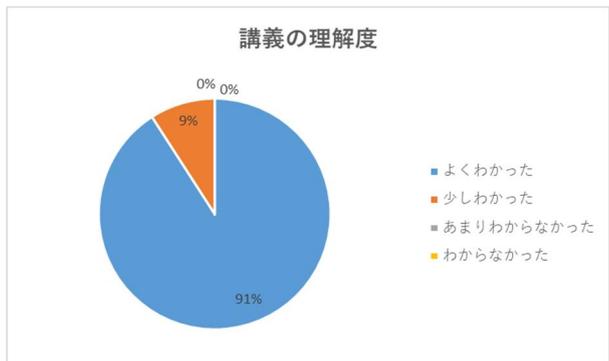


Ⅱ アンケート結果

1 満足度



2 理解度



Ⅲ 参加者からの声

○ 本研修に参加しようと思ったきっかけ、動機（自由記述、一部抜粋）

- ・障がいがある方の生涯学習と言われているが、導入の仕方、考え方などどうしていいかを学べればと考えたため。
- ・障がいの有無に関わらず、事業を企画・運営していくことが大切だと感じたため。
- ・障がい者の生涯学習に関わる事業の担当になり、自身の学びを深めるため。

○ 本研修に参加して気付いたこと、感じたこと、これから実践したいと思ったこと等感想（自由記述、一部抜粋）

- ・当事者がどのような支援を望んでいるか、対応を繰り返すことが大切。至らなかった部分を改善し続ける。
- ・当事者の思いに目を向けていなかったのではないかと気付くことができました。
- ・専門職としての視点ではなく、生活者としての視点を大切にしていくことの重要性について、深く考えさせられました。

Ⅳ 講師からひとこと

交流の時間には、私も話し合いに参加させていただきました。話し合う中で、そもそも地域の実態把握が難しくなっている現状を聞かせていただき、改めて、社会教育において、地域に暮らす方々の学習要求の組織化が鍵であることを考えました。引き続き、皆さんと学ぶことのできる機会を楽しみにしています。

Ⅴ 担当者からひとこと

社会教育からみる合理的配慮とは？ということをいろいろと考えることができました。ブラッシュアップ演習でも、講師と参加者、あるいは参加者同士で様々な話し合いが展開され、対面研修の良さを実感しました。道内各地から遠いところ御参加いただき、ありがとうございました。